

平成 2 2 年度

事業報告



[平成 2 2 年度 新規研修講座 夕やけ講座]

平成 2 3 年 3 月

市原市教育センター

目 次

I. 調 査 研 究 事 業	1
II. 教 職 員 研 修 事 業	9
III. 教 育 相 談 事 業	11
IV. 情 報 教 育 推 進 事 業	13
V. 特 別 支 援 教 育 推 進 事 業	14
VI. 普 及 事 業	16
VII. そ の 他 の 事 業	18

I. 調査研究事業

1. 各部会の活動

(1) 国語研究部会

① 研究主題 生きてはたらく国語力の育成をめざす言語活動の工夫

② ねらい

新学習指導要領において、義務教育を通して実生活・実社会に生きてはたらく国語の力を、系統を意識してスパイラルに繰り返し身につけさせていくという方向性が示された。そこで、小・中の指導案検討を共同で行うと共に互いに授業参観を行い小中の連携を意識しながら実践に取り組む。

③ 内容 日常生活に必要とされる国語力を身につけさせるために、市原市の子どもの実態に合った言語活動を工夫し、授業実践を行う。

(小学校2学年) 話す・聞く双方向のコミュニケーションを目指した指導の工夫 (授業公開)

「つたえ方をくふうしよう」

(小学校6学年) 聞くことを意識した話し合い活動

「パネルディスカッションをしよう」

(中学校2学年) 情報を収集する力の向上をめざした指導法の工夫 (授業公開)

「相手の気持ちや自分が得たい情報を引き出すインタビューをしよう」

(中学校2学年) 資料を効果的に活用して話す力の向上をめざした指導の工夫

「職場体験の報告会をしよう」

(中学校3学年) 場の状況や相手の様子に応じて話すための指導法の工夫

「自分の人柄や考えを効果的に伝えよう」

④ 成果と課題

ア 小・中学校が共同で指導案検討したことで小・中それぞれの視点から助言し合うことができ、指導事項の系統性を意識した授業を組み立てることができた。また、実際に授業参観で小・中学生の実態を目にし、義務教育9年間という広い視野に立った計画的・系統的な学習指導の必要性を実感することができた。

イ 学校行事や総合学習など、学校生活における実際の言語活動を題材として取り上げたため、明確な目的意識や相手意識を持たせ、学習意欲を持続させることができた。学習後の学級活動の中でも学んだことを生かそうとする姿が見られた。

ウ 学校行事や総合学習・学級活動の中の言語活動を題材として国語の授業で扱う場合に、他の職員との連携を取ることが難しい。学年・学校全体で計画立てた指導ができるよう全職員で共通理解を図っていくことが課題である。また、単元として重点を置いて話すこと・聞くこと」の指導を行うと共に日常生活における帯単元として、継続的な指導も計画していきたい。

⑤ 資料の発行

・生きてはたらく国語力の育成をめざす国語力育成を目指す言語活動の工夫 (第144集)

⑥ 研究員及び担当所員

富山小学校教諭	平林 純一	八幡中学校教諭	荒井 真子
湿津小学校教諭	富川 亜希子	五井中学校教諭	根本 尚美
光風台小学校教諭	深澤 宏彰	ちはら台南中学校教諭	蒲谷 修平
担当	市原市教育センター指導主事	小出 美千代	

(2) 社会科学習資料研究部会

小学校

① 研究主題 小学校社会科副読本(同付録地図)を生かした学習指導のあり方

② ねらい

昨年度実施したアンケート調査の結果をもとに、新学習指導要領に対応した内容について全面的に改訂をするとともに各分野のデータの更新や資料の差し替えを行う。

③ 内容

ア 新学習指導要領に対応した内容について全面的に改訂をするとともに、「同付録地図」の部分改訂を行った。 ※平成23年4月に新3年生へ配付予定

イ 4年「れきしや文化を生かす」の単元の評価資料(ワークシート)を作成した。 ※web化

④ 成果と課題

ア 新学習指導要領に対応した内容について全面的に改訂をするとともに、各分野のデータの更新や資料の差し替えを行うことができた。改訂内容を中心に、来年度は指導資料(指導展開例・ワークシート)を作成していきたい。

イ 23年度は、全面改訂した副読本を3年生が使用し、4年生は改訂前の副読本を使用することになる。年度当初に、現場が混乱しないように情報提供をしていきたい。

中学校

① 研究主題 中学校社会科副読本(同付録地図)を生かした学習指導のあり方

② ねらい

22年度に改訂した公民分野の内容を中心に、副読本を効果的に活用した学習指導について研究し、指導資料を作成する。また、次年度の副読本改訂の方向性を考える。

③ 内容

ア 副読本を活用した指導事例として公民分野の指導資料(指導展開例)を作成した。 ※Web化

イ 新学習指導要領に対応した内容について確認をするとともに、来年度の改訂の方向性を検討した。

④ 成果と課題

ア 22年度訂された公民分野「未来にはばたく市原市」の9つの単元のうち、6つの単元について指導資料(指導展開例)を作成した。地域の資料を収集し、児童が興味・関心を持つように工夫した。残りの3つの単元についても、今後継続して取り組んでいきたい。

イ 新学習指導要領に対応した内容について検討し、副読本改訂の方向性を考えることができた。全体的な資料等の充実を図り、さらに活用しやすい社会科副読本になるようページ構成等も考え、来年度の改訂を行っていきたい。

⑤ 資料の発行

中学校社会科副読本「私たちの市原市」指導の手引き・・・・・・・・資料第145集

⑥ 研究員及び担当所員

辰巳台東小学校教諭	山本 和幸	五井中学校教諭	森 正徳
京葉小学校教諭	納上 将史	有秋中学校教諭	池田 浩将
若葉小学校教諭	高橋 德行	市原中学校教諭	海野 義彦
担当	市原市教育センター指導主事	百瀬 正洋	

(3) 算数・数学研究部会

① 研究主題

算数・数学指導におけるICTを活用した効果的な指導のあり方

② ねらい

新学習指導要領（平成20年3月告示）の「総則」では、「各教科の指導において、教師がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。」とされ、教科指導の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童・生徒の学力向上につなげていくことが重要であることが示された。

また、市原市では地上デジタル放送対応の大型テレビが、小学校のほとんどの普通教室に（中学校は各校3～5台）整備され、校内LANも平成23年度から全校で利用が可能となる。

このことを踏まえ、算数・数学指導における児童生徒の学力向上につなげていくICTを活用した効果的な指導のあり方について研究する。

③ 内容

ア 大型テレビや実物投影機、導入されているソフトウェアやインターネット上のデジタルコンテンツなどを活用した授業プランの作成

イ PowerPointのアニメーション機能等を使ったデジタル教材の作成

ウ 各研究員による授業実践

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| ・小学校1年 「ながさくらべ」 | ・小学校3年 「三角形と角」 |
| ・小学校4年 「直方体と立方体」 | ・中学校2年 「図形の性質と証明」 |
| ・中学校3年 「関数 $y = ax^2$ 」 | ・中学校3年 「図形と相似」 |

エ 実践した授業について、本時の展開やICT活用のポイント、活用の効果等をまとめた指導資料の作成

オ 作成した教材や指導資料を、市全体での共有化を図るため、教育情報ネットワークの共有ボックスに登録し、公開する。

④ 成果と課題

ア 大型テレビに大きく映し出すことで、児童生徒の学習意欲高まるとともに、本時の課題や指示内容等を明確につたえることができ、スムーズに学習を進めることができた。

イ いろいろな考えを瞬時に提示し比較検討ができるとともに、他の児童生徒がどんな解き方をし、どう考えたかなど、学習の交流を深めることができた。

ウ 教師が問題や表を黒板に書く時間が短縮された分、個別指導や児童生徒がじっくりと考える時間に充てることができ、常に課題に向き合わせることができた。

エ 復習やヒントの画面を繰り返し見せることによって、児童生徒が理解しやすくなり、多くの児童生徒が自分で考えて解答を求めることができた。

エ 今後も指導のねらいや児童・生徒の実態に応じた教材の充実を図り、算数・数学指導における児童・生徒の学力を高めるためのICTの効果的な活用の方法について研究を進めていく必要がある。

⑤ 資料の発行

算数・数学指導におけるICTを活用した効果的な指導のあり方・・・指導資料146集

⑥ 研究員及び担当職員

千種小学校教諭	岡田 明子	市東中学校教諭	金本 園美
明神小学校教諭	大平 真弓	市原中学校教諭	餅田 誠
国分寺台小学校教諭	本宮 かおり	有秋中学校教諭	福井 裕紀
担当	市原市教育センター指導主事	鶴岡 真司	

(4) 理科研究部会

① 研究主題

観察・実験の問題点を改善した教材づくりをとおしての授業支援
市内の生き物調べ

② ねらい

- ア 小学校は23年度（中学校は24年度）から新学習指導要領が実施となる。新学習指導要領は、指導内容が現行より増え、今まで以上に観察・実験を伴う授業が求められている。しかし、実際教科書にある観察・実験の中には、様々な理由から結果が出にくく、児童生徒の学習意欲に結びつかない「やりにくい観察・実験」がある。そのため授業で観察・実験を行っても、子どもたちを納得させる結果になりにくいと困っている教師もいるとの状況が昨年度の取り組みから明らかになっている。そこで、今年度は、昨年度中に改善できなかったものや他に原因があるのではと思われる観察・実験の工夫、新学習指導要領における新項目で児童生徒の学習意欲が向上する導入や実験方法の工夫に取り組んだ。
- イ かつては、日本中至る所で見られたメダカ、ホタル、ホトケドジョウなどが、「環境省レッドデータブック」や「千葉県の保護上重要な野生生物」に、掲載されるようになった。自然に恵まれた市原市でも、これらの生物の生態の経年変化を見ていくことが必要である。そこで、市内のメダカ、ホタル、ホトケドジョウの生態調査を実施して「生きものマップ」（平成11年度から継続）を作成し、生物の生息の実態を掴むとともに、子ども達に地域の自然に関心を持たせ、自然の保全に目を向けさせるための資料づくりに取り組んだ。

③ 内容

- ア 昨年度中に改善できなかったものと新学習指導要領の新項目で児童生徒の学習意欲を高める導入の工夫や実験方法の検討改善を行った。研究員による授業公開も行った。
- イ 国の絶滅危惧Ⅱ類のメダカ、絶滅危惧ⅠB類のホトケドジョウ、県の重要保護動物のホタルの市内生態調査を理科研究部会による定点調査と児童生徒による調査を実施した。

④ 成果と課題

- ア 昨年度実施した教員アンケート結果や新学習指導要領の内容から「やりにくい観察・実験」を抽出し、研究を行うことで教材の改善に努めた。
- イ 研究員による授業公開を通じ、小中学校の研究員が研究内容を話し合い、授業を上げることができた。
- ウ 残された「やりにくい観察・実験」を改善する教材づくりを行わなければならない。
- エ 今後も改善した教材を現場の先生方に広く知らせる方法を考えなければいけない。

⑤ 資料の発行

「観察・実験の問題点を改善した教材づくりをとおしての授業支援」資料第147集-1
「市内の生き物調査」資料第147集-2

⑥ 研究員及び担当職員

千種小学校教諭	渡部 智也	国分寺台中学校教諭	小野 寺城治
白鳥小学校教諭	森山 秀治	五井中学校教諭	白木 康彦
牧園小学校教諭	荒木 正範	姉崎中学校教諭	太谷 育世
担当	市原市教育センター指導主事	坂井 素	

(5) 特別支援教育研究部会

① 研究主題

どの子ども安心して取り組める授業の支援のあり方

② ねらい

通常の学級では、担任が配慮を要する子どもたちへの具体的な支援を日々重ねている。一斉授業の中では、学習への参加の難しい子ども、支援教室等を利用し個々のニーズに応じた支援を受けることで、通常の学級でも安心して取り組む子どもの姿があった。そこで本部会は、個別の支援を受ける子どもたちの様子から、子どもの目線で授業を検証していくことで、一斉の授業の中でどの子ども安心して取り組むことのできる支援のあり方を考えた。

通常学級の授業で教師の動き(授業の展開の仕方)を中心にビデオで撮り、研究員で具体的な支援方法を探ってみた。その中で「授業の中の安心感」が話題にあがった。授業の流れ、声のかけ方、ほめ方、教材の提示の仕方、板書の方法、教室環境などを子どもの側から見える・聞こえる・感じる授業づくりに焦点を当ててみた。

③ 内容

ア 特別支援教育研究校での学習指導案作りから参加をさせていただく。

イ 研究員がアの授業を参観する。(4年・支援学級の授業展開)

ウ 1年・6年の授業をビデオを見ながら、支援について提案をする。

エ ウをもとに、授業研究会を行ってもらう。

オ オエをもとに、授業研究当日のビデオを見ながら、検証をする。

エ 板書の仕方、学習課題の理解とすすめ方、机間指導、教師の発問やほめ方など、子どもの目線で授業を検証する。

④ 成果と課題

通常学級の授業をビデオに撮り検証してみたところ、教師の工夫が子どもへの安心感をもたらすことがわかった。具体的には以下の通りである。

ア 同じ課題に取り組み、友達との差のない学習環境を設けることでの安心感や友達と同じ速さで勉強をしているという、取り残されていないという安心感が見えてきた。

イ 授業中どのように学習をするのかが示されており、今やっている問題がわかるように、プリントと黒板に書かれた問題と同じ位置に表示していた。

ウ 子どもたちが質問したり、やり方がわからなくて困ったりした時には、いつも目の前に教師がいた。担任やTTが、通路をたてに動かずに、横に動いて子どもの様子を見ていた。

エ 教師は子どもに声をかけるときには、後ろからいきなり声をかけることはしない。目の高さを同じにして、短い言葉で、わかりやすく対応していた。

オ 授業を受けている子どもたちの声を聞き、「安心感」を検証することが課題となる。

⑤ 資料の発行

どの子ども安心して取り組める授業の支援のあり方・・・・・・ 資料148集

⑥ 研究員及び担当職員

国分寺台小学校教諭 小川 恵未

国分寺台東小学校教諭 菅野 佳織

国府小学校教諭 田中 明美

姉崎小学校教諭 柴田 裕希

姉崎中学校教諭 石川 貴子

ちはら台南中学校教諭 水落 吉樹

担当 市原市教育センター指導主事

荻野 恵美 積田 兆生

(6) 教育相談研究部会

① 研究主題

学級担任が行う予防開発的な教育相談のあり方Ⅲ — Q-U分析を通して—

② ねらい

- ア 「楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U」検査を実施し、児童生徒一人一人の適応状況を把握・分析すると共に、変容を明らかにする。
- イ 児童生徒が相互に共感性を高め、いじめ・不適応が起きにくい、安心感・信頼感のある学級風土をつくる指導方法を研究する。

③ 内容

- ア 児童生徒の学級満足度を測る尺度として「楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U検査」(河村茂雄1998)を使用した。
Q-U検査とは、学級集団が居心地がよいと感じているかどうかを探る「学級満足度尺度」と、児童生徒の学校生活における意欲や充実感をいくつかの領域から測定する「学校生活意欲尺度」の、2つの尺度から構成されている。
実施対象は、市内小・中学校5校5学級である。それぞれの学級で、1回目の結果をもとに学級分析をし集団及び個人に対して積極的な支援を行った。その後、2回目の検査を実施し、その変容を確認した。
- イ Q-U検査1回目の型の分析をもとに、集団と個別の両面からそれぞれの群にいる児童生徒への効果的であるとみられる指導・支援を実施した。また、Q-U検査2回目を実施し、結果をもとにした指導・支援がどの程度有効かを判別した。

④ 成果と課題

- ア 児童生徒の学級満足度を高めるため、客観的判断材料として、従来の観察法・面接法に加え、Q-U検査を併用して総合的に判断する事は有効であった。年2回にわたり、学級分析を行うことで、学級経営のどこに改善が必要なのかを検討し、指導・支援することが容易になった。
また今年度も、展開した実践がどの程度有効なのかを教師の手応えとして、☆印の数で表すことで実践内容の有効性についての目安を示すことができた。
- イ それぞれの群にいる児童生徒への効果的な指導・支援を類型化し指導事例としたが、今後より多くの指導事例を通してより使い易い資料になると考えている。

⑤ 資料の発行

学級担任が行う予防開発的な教育相談のあり方Ⅲ

— Q-U分析を通して— ……資料第149集

⑥ 研究員及び担当職員

国分寺台西小学校教諭	原田 広美	八幡中学校教諭	川原 久英
青葉台小学校教諭	栗原 裕一郎	若葉中学校教諭	宮原 悦子
戸田小学校教諭	毛塚 真澄	千種中学校教諭	伊豆 浩江
担当	市原市教育センター 指導主事	東城 隆男	

(7) 幼稚園教育研究部会

① 研究主題

幼児が、自己を発揮し、多様なかかわりができるような援助のあり方
～人とかかわる力を育てる～

② ねらい

幼児期における人とのかかわりについて考え、教師が、どのように幼児を理解し、人とかかわる力を育てるためにどのような援助をしていけばよいのか、その方策を考える。そして、日々の園生活の中で、幼児がいきいきとした表情で活動できるように援助していく。

③ 内容

- ア 日々の実践を通して、人とかかわる力を育てるための援助のあり方の検討
- イ 年間計画の作成
- ウ 実践事例の作成

④ 成果と課題

- ア 教師が遊びに誘ったり友だちとの間に入ったりして、友だちと遊ぶことの楽しさを味わえるようになってきた。関心のある遊びの場を用意することや得意なことを他の幼児に知らせるなどの個々に応じた援助により、他の幼児に認められ、自信が付き、自ら声をかけたり他者の誘いに応じられるようになった。そして、友だちに自ら話しかけて受け入れられる経験を重ねていくうちに、安心して自分の気持ちを伝えられるようになった。
- イ 相手に自分の気持ちを伝えることができるようにするために、場面に応じた言葉を教えた。「ありがとう」や「ごめんなさい」「いれて」「いっしょにやろう」「いやだよ」など、場面に応じた言葉を使えるようになってきた。
- ウ 他の幼児の言動に触れ、相手の気持ちを考えて話ができるようになった。
- エ トラブルの際には、お互いの気持ちを教師が双方の立場や考えをていねいに説明することにより、相手の気持ちに気づき、解決の方法を見いだすようになった。
- オ 家庭と園が同じような願いで連携し協力することができたので、よい結果に結びついた。
- カ 友だちと気持ちを共有することや同じ目的に向かって遊んだり活動したりしていく中で力を合わせる大切さや一人ではできない楽しさに気づけるようにしたい。
- キ 教師が意図的に支援しても経験が少ないと理解が難しい。幼児の興味関心を理解し、場をとらえての有効な援助をすることの必要性を感じた。
- ク 双方向の話し合いがまだ難しい幼児もいる。自分の気持ちを言語表現する方法を見いだすことや教師のかかわり方が課題である。

⑤ 資料の発行

幼児が、自己を発揮し、多様なかかわりができるような援助のあり方
～人とかかわる力を育てる～ 資料第150集

⑥ 研究員及び担当職員

惣社幼稚園教諭	佐野 さやか	牛久幼稚園教諭	東 美希
辰巳台幼稚園教諭	豊田 香織		
担当	市原市教育センター嘱託	高山 昭代	

(8) 外国語研究部会

① 研究主題

小中学校5年間の見通しを持った英語教育のあり方について

② ねらい

新学習指導要領に基づき、平成23年度より小学校外国語活動が35時間完全実施されるが、本市では、先行して平成21年度から段階的に全小学校で外国語活動を展開してきた。23年度の新中学1年生は、2年間の英語活動を経験した上で、英語学習を始めることになる。そこで、英語（英語活動）の指導内容や指導方法等、小学校外国語活動と中学校英語教育の小中学校5年間の見通しを持った英語教育の在り方や小中学校の効果的な連携の在り方をしっかりと捉え、英語教育を推進していくことが必要であると考えた。

③ 内容

- ア 平成23年度より完全実施される小学校外国語活動35時間分の指導内容・指導方法を研究し、指導案集の作成を行う。
- イ 小学校外国語活動導入に対応した、中学校英語教育の実践的な指導の在り方、指導方法の研究を行い、5年間の英語教育における小中学校連携カリキュラムの作成を行う。
- ウ 英語活動指導案の作成。

④ 成果と課題

- ア 市原市教育委員会発行の22年度版「小学校外国語活動（25時間対応）」を基に、指導内容・指導方法の一部改訂と10時間分の新指導案を追加し、授業で即活用できる資料を充実させた指導案集を完成することができた。
- イ 研究の成果を、平成23年度版「小学校外国語活動（英語活動指導案）第5・6学年用〈35時間対応〉」として市原市教育委員会から発行、2月末に全小中学校に2部ずつ配付した。
- ウ 指導案集の電子データは、「ジョイコミ」からダウンロードすることが可能となった。
- エ 「外国語活動画像素材集」を作成し、インターネットの無料配信のイラスト等をカテゴリ別にまとめた画像データを、学校事務パソコンのネットワーク「share」に保存。自由にコピーできるようにした。
- オ 作成した指導案をもとに検証授業を公開した。同中学校区の幼稚園、小学校、中学校および他区の小中学校から、牛久小職員を併せ50名以上の教員が参加し、外国語活動の実施に伴う課題や中学校英語への効果・課題等について情報交換することができた。
- カ 平成23年度版「小学校外国語活動（英語活動指導案）」に基づき、「小中連携カリキュラム」の作成に取り組むことができた。
- キ 平成23年度版「小学校外国語活動（英語活動指導案）」の効果を調査・検証を行う。

⑤ 資料の発行

小中学校5年間の見通しを持った英語教育のあり方について・・・資料第151集

⑥ 研究員及び担当職員

牛久小教諭	金子 房代	有秋中教諭	石川 雅秀
光風台小教諭	常澄 智代	南総中教諭	田中 恵理子
ちはら台桜小教諭	國友 貴子	辰巳台中教諭	伊藤 八千代
担当	市原市教育委員会指導課指導主事	鈴木 俊一	
	市原市教育センター主任指導主事	弓下 雅章	

2. 研究成果活用に向けての取り組み

今年度は、研究成果を学校現場に広く知ってもらい、役立てもらうことに重点をおいて以下のことを新たに取り組んだ。

(1) 授業公開

①内容 研究推進のために行う検証授業を公開することにより、市内教員の授業力等の向上に役立てもらう機会を提供するとともに研究員の活動概要について周知を図った。

ア 実施期間 平成22年11月～平成23年1月（申込開始10月5日より）

イ 会場 研究員の所属校

ウ 授業公開数 8回実施（国語、算数・数学、理科、外国語の4研究部会）

エ 参加数 60名（研究員所属校の教員やセンター所員の数は含まない）

②成果と課題

ア 成果 ・各教科等の授業実践をもとに指導方法等の工夫について紹介する機会となった。また、研究協議会では、学校種を超えてそれぞれの持つ課題等についても交流が図られ、解決に向けての見通しをもつことができた。

イ 課題 ・市内教員の参加がしやすくするために、できる限り早い時期に授業公開の期日等を広報する必要がある。

(2) 調査研究概要の報告会

①内容 例年行われている研究概要報告会に研究員以外の教員の参加を募った。

ア 実施日 平成23年2月17日

イ 会場 市原市教育センター

ウ 参加人数 65名（研究員44名、希望者9名、教育委員会12名）

③成果と課題

ア 成果 ・意見交換の場を持つことによって、幼小中の交流を図ることができた。
・研究概要を詳しく知ることにより、成果の活用に向けての具体的な見通しをもつ機会となった。

イ 課題 ・各部の研究について、十分に討議する時間の確保等についての検討が必要である。

(3) 学校に役立つ指導資料集と研究概要の要旨の配布

各部の研究概要を簡潔にわかりやすく周知するために、研究概要の要旨を配布した。また、7研究部会（幼稚園教育研究部会を除く）の指導資料集を「学校で役立つ指導資料集」として1冊にまとめ、「ジョイコミ!」にweb化したものを合わせての活用促進をめざし、各園・各小中学校に配布した。

II. 教職員研修事業

1. 方針

本市の持つ教育課題をふまえ、教職員の資質の向上と指導の改善を図るために研修を行い、本市教育の充実に資する。

2. 運営

- ① 教育センター所員が計画立案し、講師を招聘したり、所員が講座を運営する。
- ② 平成22年度領域別研修会受講者数・講座数・日数

NO	領域	受講者数	講座数	日数	義務・希望別講座数	
					義務	希望
1	各教科等指導研修	446	14	23	3	11
2	教務主任研修	132	1	2	1	0
3	パソコン操作研修	262	13	16	4	9
4	課題別研修	492	10	12	9	1
5	教育相談	52	4	4	0	4
6	特別支援教育研修	299	4	5	2	2
7	幼稚園教育	27	1	1	1	0
8	教職員セミナー	108	4	2	0	4
合計		1,818	51	65	20	31

3. 研修会一覧【平成22年度領域別研修会受講者数等一覧】

講座が複数回の場合は総数↓

領域	No.	研修会名	回数(義・別)	講師	参加者数
各教科等指導研修	1	小学校理科担当研修会	1回(義務)	大学教員(1)指導主事(1)	44
	2	中学校理科担当研修会	1回(義務)	指導主事(2)	19
	3	国語学習指導研修会	1回(希望)	市職員(1)小学校教諭(1)	27
	4	社会科学学習指導研修会	1回(希望)	小学校教諭(4)	12
	5	算数学習指導研修会	1回(希望)	指導主事(1)小学校教諭(2)	23
	6	理科実技研修会	1回(希望)	中学校教諭(3)	15
	7	小学校音楽実技研修会	1回(希望)	元校長(1)インストラクター(1)	33
	8	書写指導者実技講習会	1回(希望)	元校長(1)校長(1)指導主事(1)	29
	9	図画工作美術研修会	1回(希望)	小学校校長(1)	22
	10	事務職員研修会	1回(義務)	県教委指導主事等(2)	68
	11	事務職員スキルアップ講座Ⅰ・Ⅱ	2回(希望)	市教委職員(1)事務長(12)	27
	12	☆土曜講座 小学校外国語活動Ⅰ・Ⅱ	2回(希望)	小学校教諭(1) 大学教員(1)	23
	13	☆土曜講座 教師のための園芸Ⅰ～Ⅲ	3回(希望)	元校長(1)	17
	14	☆特別講座 夕やけ講座Ⅰ～Ⅵ	6回(希望)	小校長(1)小教諭(1)指導主事(1)	87
小計					446
パソコン操作	1	小学校情報教育主任研修会A・B	2回(義務)	指導主事(1)	46
	2	中学校情報教育主任研修会	1回(義務)	指導主事(1)	21
	3	ホームページ担当者研修会	1回(義務)	指導主事(1)	39
	4	事務職員のためのパソコン研修会	1回(希望)	学校事務職員(1)	37
	5	ICTを活用した授業づくり	1回(希望)	小学校教諭(1)	7
	6	情報モラル教育の進め方	1回(希望)	小学校教諭(1)	9

研 修	7	ジャストスマイル活用講座	1回(希望)	インストラクター(1)	12
	8	わいわいレコーダー活用講座	1回(希望)	インストラクター(1)	4
	9	ラインズeライブラリアドバンス活用講座	1回(希望)	インストラクター(1)	6
	10	漢プリっこ・計プリっこ活用講座	1回(希望)	インストラクター(1)	6
	11	☆土曜講座すいすい表計算Excel入門	1回(希望)	指導主事(1)	5
	12	☆土曜講座らくらくプレゼンPowerPoint入門	1回(希望)	指導主事(1)	4
	13	校内LAN・大型TV活用研修会	3回(義務)	指導主事(1)	66
小 計				262	
課 題 別 研 修	1	課題別研修会Ⅰ(道徳教育)	1回(義務)	指導主事(1)	71
	2	課題別研修会Ⅱ(生徒指導)	1回(義務)	市教委職員(1)	70
	3	授業力・人間関係力を高める講座Ⅱ-1	1回(義務)	研究所職員(1)指主(11)校長(1)教諭(1)	39
	4	授業力・人間関係力を高める講座Ⅱ-2	1回(義務)	小中学校教諭各1(2)	37
	5	授業力・人間関係力を高める講座Ⅲ-1	1回(義務)	大学(1)指主(13)校長(1)教頭(1)教諭(3)	60
	6	授業力・人間関係力を高める講座Ⅲ-2	1回(義務)	小校長(1)市教委職員(1)	57
	7	授業力・人間関係力を高める講座Ⅳ-1	1回(義務)	小学校教諭(1)中学校教諭(1)	26
	8	授業力・人間関係力を高める講座Ⅵ-2	1回(義務)	小学校教諭(1)	27
	9	初任者指導教員研修会Ⅰ・Ⅱ	2回(義務)	小校長(3)市教委職員(1)	52
	10	リーダー養成塾Ⅰ・Ⅱ	2回(希望)	県指導主事(4)	53
小 計				492	
教 務	1	教務主任研修Ⅰ・Ⅱ	2回(義務)	市教委職員(3)	132
	小 計				132
教 育 相 談 研	1	教育相談講座(基礎Ⅰ)	1回(希望)	大学教員(1)	16
	2	教育相談講座(基礎Ⅱ)	1回(希望)	研究所職員(1)臨床心理士(1)	11
	3	教育相談講座(基礎Ⅲ)	1回(希望)	大学教員(1)	13
	4	教育相談講座(基礎Ⅳ)	1回(希望)	大学教員(1)中教諭(1)	12
小 計				52	
特 別 支 援 研 修	1	特別支援学級等担当者研修会	1回(義務)	大学教員(1)団体職員(1)	95
	2	幼小中特別支援コーディネーター研修会Ⅰ	1回(義務)	特支援学校指導員1教諭1(2)	72
	3	幼小中特別支援コーディネーター研修会Ⅱ	1回(義務)	小学校教諭(2)	69
	4	通常学級の中での支援Ⅰ	1回(希望)	大学教員(1)	33
	5	通常学級の中での支援Ⅱ	1回(希望)	大学教員(1)	30
小 計				299	
幼 稚	1	幼稚園研修会	1回(義務)	元校長(1)インストラクター(1)	27
	小 計				27
セ ミ ナ リ	1	教職員セミナーいちはら(1日目)	1回(希望)	大学教員(1)弁護士(1)	55
	2	教職員セミナーいちはら(2日目)	1回(希望)	大学職員(2)	53
	小 計				108
				1,818	

Ⅲ. 教育相談事業

1. 目的

子どもの教育上の問題について、望ましい解決ができるように指導・援助にあたる。

2. 教育相談の対象

市原市内に在籍、在住する幼児、児童、生徒及びその保護者や教職員を対象に相談に応じる。

3. 相談方法

- ・面接による教育相談

あらかじめ電話等で相談日を予約し、来所により相談に応じる。

4. 相談内容等の傾向

(1) 相談件数・回数 (平成22年3月31日現在)

- ・82件 618回

- ・相談の対象 幼児に関わる相談は0件、小学生29件、中学生53件であった。

- ・相談者の内訳は、小学生については、本人12件(41.4%)、母親15件(51.7%)、父親1件(3.4%)、学校1件(3.4%)であった。

中学生については、本人18件(34.0%)、母親28件(52.8%)、父親4件(7.5%) 家族等3件(5.7%)であった。

(2) 相談内容

- ・不登校に関する相談は72件で全体の87.8%である。中学生は49件で中学生全体の相談の92.5%、小学生は23件で小学生全体の相談の79.3%であった。

- ・不登校の要因としては、児童生徒の「集団不適応」と考えられるものが51件で不登校全体の70.8%と多い。次に多いのは、「性格・発達」によるものが9件で不登校全体の12.5%である。

- ・性格・発達にかかわる相談が、減少傾向にあるのは、各学校における特別支援教育の推進、及び特別支援教育指導員派遣による学校訪問等の成果と推察される。

5. 適応指導教室（「フレンド市原・八幡教室」・「フレンド市原・鶴舞教室」・「フレンド市原・姉崎教室」）

(1) 各教室においては、児童生徒の主体的な意欲をそだてるために、ゲームや調理実習を通じたふれあい活動、心をつなげるグループ活動、個別の実態に応じた学習活動、人間関係を培うスポーツ活動等の指導・援助を行った。また、教室外体験活動を通して3教室の児童生徒の交流を図り、集団への適応力を高めることができた。

(2) 児童生徒や保護者との面接、担任とのスポレクや陶芸教室等各種行事を通して、保護者・学校・適応指導教室との連携を深めることができた。

(3) 規則正しい安定した教室での活動を通して、自主性を養い自信を取り戻すことができた。その結果、完全に学校復帰できた児童生徒や学校行事や授業に部分的に参加できるようになった児童生徒もあり、成果が見られた。中学校3年生は、学校との連携により公立や私立の全日制高校や通信制サポート校等の進路を決定することができた。

(4) 国語力・計算力の向上を目指して、文学作品等の「読書」・「音読」・「転写」・「暗誦」と「計算ドリル」を毎日の活動として取り入れた。読む力・書く力に加え、自己表現力の向上が顕著であった。

資料：面接相談状況（平成22年度）

① 相談件数及び相談回数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	23	5	5	4	3	4	8	12	6	7	2	3
累計	23	28	33	37	40	44	52	64	70	77	79	82
回数	23	46	67	32	3	61	62	73	50	78	83	40
累計	23	69	136	168	171	232	294	367	417	495	578	618

② 相談件数及び相談者数

学 齢 別	幼 児	小 学 生						中 学 生			高校生 その他	合 計	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年			
相 談 件 数	男 子	0	4	0	1	4	3	4	9	6	8	0	39
	女 子	0	0	0	2	0	5	6	8	7	15	0	43
	合 計	0	4	0	3	4	8	10	17	13	23	0	82
相 談 者 別 延 回 数	本 人	0	3	0	10	11	23	17	63	161	175	0	463
	母	0	2	0	1	3	43	11	23	34	25	0	142
	父	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0	5
	家族等	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3
	教 師	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	4
	他機関	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	合 計	0	5	0	12	14	66	30	91	195	205	0	618

③ 学齢・内容別相談件数

学 齢 別	幼 児	小 学 生		中 学 生		高 校 生 ・ 他		合 計				
		男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子			
不 登 校	学 業 ・ 進 路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	い じ め	0	0	0	3	2	1	0	0	2	4	6
	家 庭 ・ 親 子	0	0	2	1	1	0	0	0	3	1	4
	友 人 ・ 異 性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教 師	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	2
	性 格 ・ 発 達	0	0	2	0	3	4	0	0	5	4	9
	集 団 不 適 応	0	0	7	7	15	22	0	0	22	29	51
	問 題 行 動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学 業 ・ 進 路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
い じ め	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2	
家 庭 ・ 親 子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
友 人 ・ 異 性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
教 師	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	
性 格 ・ 習 癖 発 達	0	0	2	0	1	0	0	0	3	0	3	
集 団 不 適 応	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	
非 行 ・ 問 題 行 動	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計	0	0	16	13	23	30	0	0	39	43	82	

(4) 教室別入級者数

教室	フレンド市原・八幡教室		フレンド市原・鶴舞教室		フレンド市原・姉崎教室		教室合計	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	学 年 別	
							男子	女子
小 5	1	0	0	0	0	0	1	0
6	0	1	1	0	2	0	3	1
中 1	0	1	1	0	0	0	1	1
2	1	1	0	0	2	1	3	2
3	4	6	0	2	2	1	6	9
計	15		4		8		27	

IV. 情報教育推進事業

1. 方針

国や県の教育の情報化に関する施策を念頭に置き、本市における教育の情報化及び施設・設備面での課題を明らかにし、本市の情報教育の充実を図る。

2. 運営

- ①学校のICT環境整備を進める。
- ②各学校の教育の情報化の支援を行う。
- ③市原市教育情報ネットワークの管理及び運営を行う。
- ④システム及びソフトウェアの更新及び管理を行う。

3. 内容

(1) 学校ICT環境整備

- ①小中学校（加茂地区4小学校を除く）校内LAN整備工事の実施
- ②小中学校事務用PC更新・保守・管理
- ③小中学校教育用PCに導入されているソフトウェアの年次更新・保守・管理

(2) 教育の情報化支援

- ①導入されている学習ソフトやICTを活用等に関する研修会の開催

【義務研修】 ○小中学校情報主任研修会 ○ホームページ担当者研修会
○校内LAN・大型テレビ活用研修会

【希望研修】 ○漢プリッコ・計プリッコ活用研修会 ○ジャストスマイル活用研修会
○わいわいレコーダー活用研修会 ○ラインズeライブラリ活用研修会
○4年目経験者研修会（ICT活用・情報モラル教育）
○事務職員パソコン研修会 ○Excel2010活用研修会
○PowerPoint2010活用研修会

- ②職員室内のネットワーク構築の支援

(3) 教育情報ネットワークの運営・管理

- ①教育センター関連ページ、教育長の部屋の更新
- ②小中学校ホームページの管理
- ③Webメールの導入とメールアドレス・パスワードの管理
- ④ファイルサーバの導入・グループウェア・データベースの管理・運営

(4) 教育センター情報機器整備

- ①教育センター研修室PC及び周辺機器の更新・保守・管理
- ②各種サーバ群の更新及びテクノセンター（ちはら台）への移設

(5) システム管理

- ①ウイルス監視システムの管理
- ②メールシステムの管理
- ③フィルタリングシステムの管理

(6) 情報セキュリティ対策

- ①日常的なウイルスチェックの実施
- ②月例のPCチェックの実施・報告・指導・支援
- ③個人PCのIPアドレスの管理

V. 特別支援教育推進事業

1. 方針

- 障がいのある児童生徒及び特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実を図る。
- 特別支援教育にかかる電話及び面接による相談活動を行い、その充実を図る。

2. 運営

- (1) 各学校の支援体制の確立及び充実に向け支援を行う。
- (2) 電話及び面接による相談活動を行う。
- (3) 特別支援教育関係の研修を行う（特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援教育研修会、特別支援学級担当者研修会）
- (4) 特別支援教育等連携協議会の運営をする。

3. 内容

- (1) 特別支援教育指導員（淑徳大学兼任講師 伊藤 鉄夫先生）による学校訪問の実施

- ①目的
 - ・校内支援体制の確立及び充実のための指導・助言。
 - ・特別な支援を必要とする児童生徒への具体的な支援についての指導。
- ②実施日 年間35日

- (2) 特別支援教育相談員による電話相談の実施（41-2825）

- ①目的 保護者からの電話相談に対応し、関係機関との連絡調整をする。
- ②実施日 月曜日～金曜日 午前9時～午後4時
- ④相談件数と対応内容
 - ・平成22年度の件数 73件（95回）
 - ・電話による相談内容の聞き取り及び関係機関との連絡調整
 - ・必要に応じて、学校に出向き児童生徒の実態把握。

- (3) 特別支援教育コーディネーター研修会の開催

- ①目的 幼・小・中学校特別支援教育コーディネーターの資質の向上を図ると共ににおける特別支援教育に関する情報交換をし、コーディネーター間の連携を深める。
- ②研修日 5月25日（火） 11月30日（火）

- (4) 特別支援教育等連携協議会の運営

- ①目的 教育、医療、福祉、労働等の関係機関と連携を図る。
- ②実施日 6月3日（木） 10月21日（木） 2月9日（水）
- ③内容 いちはら相談支援ファイル「スクラム」の作成・完了

- (5) 就学指導委員会の開催と就学相談

- ①目的 特別支援教育の対象となる児童生徒の就学相談を行い、適正な就学指導を行う。
- ②実施日 22年7月29日 10月28日 12月16日 23年1月27日 2月24日（いずれも木曜日）
- ③件数 就学指導委員会年間5回実施（審議件数149件 面接相談件数等263件）

(6) 新任特別支援学級担任への訪問支援 のべ35回

特別支援教育電話相談 平成22年度

1. 月別相談件数及び相談回数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	3	6	10	7	4	9	8	9	9	1	4	3	73
累計	3	9	19	26	30	39	47	56	65	66	70	73	73
回数	5	7	12	8	4	9	14	9	13	1	6	7	95
累計	5	12	24	32	36	45	59	68	81	82	88	95	95

2. 月別相談内容

内容	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
不登校	学業・進路									1				1
	いじめ													
	家庭・親子		1											1
	友人・異性													
	教師													
	性格・発達													
	集団不適応								1	2		1		4
問題行動														
学業・進路	1	1												2
いじめ										1				1
家庭・親子		1												1
友人・異性							2							2
教師(その他)					2		1	1	1	1				6
性格・習癖・発達			2	1				2	1	1			1	8
集団不適応														
非行・問題行動										1				1
特別支援教育	2	4	8	4	4	6	5	6	2	1	3	1		46
合計	3	7	10	7	4	9	8	9	9	9	1	4	2	73

3. 月別・学齢別相談件数

学齢別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
幼児	男	1	1	3	2	1	1		5				1	15
	女				1	1	1	2		1				6
小学生	男	2	2		3	1	4	2	2	1		1		18
	女		1	5		1	1	1		2			1	12
中学生	男									1		2		7
	女		1	1	1		2			3			1	6
高校生・他	男		1					2	1	1		2		7
	女			1				1	1		1			4
計	男	3	4	3	5	2	5	4	8	3		4		41
	女		2	7	2	2	4	4	1	6	1			29
合計		3	6	10	7	4	9	8	9	9	1	4	2	73

4. 月別・学年別相談件数

学年	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
幼児		1	1	3	3	2	2	2	5	1			1	20
	1		2	3		1	1	1		1				9
小学生	2	1												1
	3			2	1			1				1		5
	4						2	1	1					4
	5		1						1	1				3
	6	1			2	1	2			1			1	8
	中学生	1			1	1		2			2			
2		1									1	1		3
3										1				1
高校生・他			1	1				3	2	2	1	2		12
計		3	6	10	7	4	9	8	9	9	1	4	3	73

VI. 普及事業

1. 資料の発行

「Webで対応」とは教育情報ネットワークに掲載

- 第144集 「生きてはたらく国語力の育成をめざす言語活動の工夫」・・・ Webで対応
 - 第145集 「中学校社会科副読本（同付録地図）を生かした学習指導のあり方」・・・ Webで対応
 - 第146集 「算数・数学指導におけるICTを活用した効果的な指導のあり方」・・・ Webで対応
 - 第147集-1 「観察・実験の問題点を改善した教材づくりをとおしての授業支援」 Webで対応
 - 第147集-2 「市内の生き物調査」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Webで対応
 - 第148集 「どの子ども安心して取り組める授業の支援のあり方」・・・ Webで対応
 - 第149集 「学級担任が行う予防開発的な教育相談のあり方についてⅢ
－Q-U分析をとおして－」・・・・・・・・ 200部
 - 第150集 「幼児が自己を発揮し、多様なかわりができるような援助のあり方」100部
 - 第151集 「小中学校5年間の見通しを持った英語教育の在り方について」・・・ Webで対応
- この他に第147集から第148集と第151集を合本として各小中学校に1冊配布した。

2. 社会科副読本

- 小学校「わたしたちの市原市」（同付録地図も含む）

3. 「教育センターだより」

- 第1号 ・[巻頭言]「一人の百歩より百人の一步」の考えを超える時機が来た！
 - ・「キャッチボールができる教育センター」
 - ・教育相談事業 教職員研修事業 調査研究事業 特別支援教育推進事業
 - ・情報教育推進事業 普及・サービス事業 分掌及び人事異動
- 第2号 ・[巻頭言] 初任者のやる気には「2つの谷間」が存在する！
 - －クライシス期を意識した初任者指導－
 - ・特集 若年層研修（校内と校外）、教育センター図書室より（お知らせ）
 - ・教育長の部屋（再掲）、免許更新の手続きについて
- 第3号 ・[巻頭言]「虫の目」と「鳥の目」
 - ・特集！理想的な連携とは？、（幼小保連携）幼稚園・保育所との交流会
（小中連携）外国語活動連携・相互授業参観と新年度の情報交換
 - ・市小中学校科学作品展の結果、教育長の部屋（再掲）
- 第4号 ・[巻頭言] 新しい学び、9カ年教育のスタート－「連携」と「交流」をふまえて－
 - ・研究員による授業公開（理科、国語、算数・数学）、＜今後の公開授業＞
 - ・校内LANが整備されます
- 第5号 ・[巻頭言]「適度な心理的距離」と「物理的距離」
 - ・研究員による授業公開（外国語活動）、校内LAN・大型TV活用研修会
 - ・研究による「学校で役立つ指導資料」を作成しました
 - ・先生方に好評！「教職員セミナーいちほら」を開催します
 - ・携帯電話等安全教室について
 - ・平成23年度市原市教育センター研修事業について（申し込み方法変更！）

4. 「いちはらの教育」(学校教育部発行の広報紙)

- 夏号 ・[巻頭言]「創刊にあたって」 市原市教育委員会 教育長 山崎正夫
 ・いよいよ始まる小学校外国語活動(指導課)
 ・がんばってます!市原の子ども(22年1月~6月)
- 冬号 ・[巻頭言]「家庭教育について」市原市青少年指導センター 所長 松本克彦
 ・がんばる学校・園、子どもコーナー(22年7月~12月)

5. 市原市小中学校科学作品展覧会の開催

- (1) 作品受付 平成22年9月18日(土)~20日(月・祝)
- (2) 審査
 一次審査 平成22年 9月 9日(木)
 二次審査 平成22年 9月13日(月)
- (3) 展示・公開 平成22年 9月18日(土)~20日(月・祝) 於:教育センター
- (4) 作品搬出 平成22年 9月21日(火) 22日(水) 27日(月)
- (5) 表彰式 平成22年10月12日(火)(特別賞対象)
- (6) 出品・受賞の状況

<科学工夫作品の部>

学校学年	学年	出品数	特別賞	金賞	銀賞	銅賞	入選
小1年	1	16				2	14
小2年	2	31	1	1	1	3	25
小3年	3	34		1	1	2	29
小4年	4	30	1	1		2	26
小5年	5	27			2	1	24
小6年	6	31	1		2	1	27
小学校計		169	3	3	6	11	145
中1年	1	11		1	1	1	8
中2年	2	9	1	1		2	5
中3年	3	4				1	3
中学校計		24	1	2	1	4	16
小中合計		193	4	5	7	15	161

<科学論文の部>

学校学年	学年	出品数	特別賞	金賞	銀賞	銅賞	入選
小1年	1	31	1		1	1	28
小2年	2	42		1	1	1	39
小3年	3	42			2	2	38
小4年	4	57	1	1		2	53
小5年	5	71	1	1	1	2	66
小6年	6	102		1	2	2	97
小学校計		345	3	4	7	10	321
中1年	1	62		1	1	1	59
中2年	2	65				3	62
中3年	3	12	1			1	10
中学校計		139	1	1	1	5	131
小中合計		484	4	5	8	15	452

<出品>

- ・小中学校より、総数677点(工夫作品193点、論文484点)の出品
- ・一般公開には大人・子供合わせて昨年度を62人を超え約1,582人の参観があった。
- ・上位入賞作品の内、2部門合わせて31点(工夫作品16点、論文15点)を千葉県児童生徒科学作品展に出品

<授賞>

- 特別賞・・・市長賞・教育長賞・環境部長賞・教育センター所長賞(2部門各1点)
- 金賞・銀賞・銅賞(2部門合計で10点・15点・30点)

(7) 千葉県児童生徒科学作品展の結果

- <工夫作品の部> 優秀賞1(小学校6年生) 優良賞1(小学校4年生)
- <科学論文の部> 優良賞1(小学校5年生)

(8) 作品の傾向

＜科学工夫作品の部＞

各種センサーとバネの弾性を工夫してつくられた「不思議なローラー乗り」、電池と端子の接点を点方から線にかえる工夫した「かいてんブランコ」、ソーラーパネルで光を電気に変えモーターを動かす「エコでクールなランドセル」、ビー玉の重力を利用しながら各部品の角度や形を試行錯誤を繰り返しながら自作した「観覧車」など新しい技術と工夫をされたものが特別賞に推薦された。全体的には乾電池を利用した電気で動く作品が多く見られた。また、環境を守ることを意識した作品も見られた。

＜科学論文の部＞

太陽電池を利用した手作りの装置で「千葉県河川の水質を調査」、振らなくても常においしい「革新的なドレッシングの研究」、「房総丘陵のトンボ」を5ヶ月間かけて調べた調査、食卓の果物をいろいろな方向から見た「浮き沈みの実験」が特別賞に輝きました。今年度も生物分野の論文が多く、特に地域の自然環境に関する論文が高い評価を受けた。

論文を作成する場合、研究の目的、そのための実験や観察の内容や方法、結果、考察、まとめを明確にわかりやすい表現で表すことができるようにしたい。

6. 貸し出し及び作成・提供・斡旋

(1) 図書資料

・貸し出し	96冊	・閲覧	63回
・外部機関からの提供資料	102冊	・平成22年度購入・寄贈図書	94冊
・平成22年度購入雑誌類	15種		

(2) 理科関係

- ・実験機器、器具の貸し出し 8回(45点)
- ・教材斡旋(小学校用ヒメダカ) 42校・6園 (4,750匹)

(3) 図工関係

- ・焼成期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日
- ・焼成回数 29回 (小学校13回・中学校9回・他機関7回)
- ・用具等の貸し出し 4件(陶芸用具)

(4) 教材テープ貸し出し 56本

(5) 視聴覚機器貸し出し

・プロジェクター	6回	・ノートパソコン	2回
・デジタルビデオカメラ	1回	・実物投影機	2回
・スクリーン	0回	・OHP	1回

(6) VTR編集機 0回

・16^{mm}映写機 1回

(7) AED 4回

VII. その他の事業

1. 教科書センターの運営

(1) 名 称 市原教科書センター

(2) 事 業

○教科書の発行に関する臨時措置法、同施行規則による展示会に展示された教科書を、教育センターにおいて常時閲覧に供した。

○教科書展示会 平成22年 6月18日(金)～7月3日(土)

(土曜日は開館・日曜日は休館)

○閲覧者数(期間中) ----- 132名

(内訳) ・小学校教員 62名

・中学校教員 19名

・他の学校教員 30名

・行政関係 13名

・一般 8名

2. 外部機関による教育センター利用回数 ----- 53回

(内訳) ・市原市教育委員会 20回

・小中校長会 5回

・小中教頭会 2回

・市教研 3回

・その他 23回